

土木学会エネルギー委員会
低レベル放射性廃棄物・汚染廃棄物対策に関する研究小委員会

中間貯蔵施設における除去土壌等の減容・再生利用方策検討ワーキンググループ（第6回）
議事録（案）

日時：2017年2月20日（月） 9:00～11:20

場所：土木学会 E・F 会議室

出席者：大西主査、勝見副主査、河西幹事長、伊藤委員、吉原委員、石田（東）専門委員、横山幹事、渡邊幹事（委員のみ、順不同）

議題

（1） 前回議事録等の確認

前回議事録が承認された。

（2） 平成28年度検討課題について

2-1) 現地発生土等の活用事例調査・整理について

① 現地発生土等の活用事例調査・整理結果取りまとめ（案）

幹事団よりWG6-2を用いて公共事業等における現地発生土等の活用事例について調査結果の経過報告があり、それに対して次のような意見交換がなされた。

C: 現地発生土等の活用事例に関して、土木の観点からの要求事項と放射線影響に関する要求事項は区別して整理するとよい。また、通常の廃棄物と災害廃棄物とは区別して扱い方を考える必要があり、ここでの対象は災害廃棄物であることを先ず明確にして議論した方がよい。

Q: 東日本大震災で発生した「災害廃棄物から分別した土」の利用では、地域全体で資材の活用について管理運営していくことが求められていたようだが、ここでいう「地域全体」とはどのようなスケールか。

A: ここでの災害廃棄物の事例では、工事の規模によるが、ほとんどが市町村レベルであり、一部の例では県主導であった。

C: 除去土壌の再利用を考える場合は、少なくとも県全体レベルで考える必要があると思われる。

C: 取りまとめにおいて、事例調査からの知見としての必要事項と、技術開発等の今後の活動に関わる事項とをそれぞれ区別して整理するとよいのではないか。

C: 分級は、色々な目的で実施される。セシウムは細粒分により多く吸着されるという特性が重要であるが、土木資材として見れば様々な粒度が適度に混ざっていた方がよい。活用事例調査の中で、「合理的な材料の調整」という項目が挙げられ、その中で分級されない可能性も考慮してということも触れられていたが、基本的には粒度調整も一つの重要

な作業であり、誤解を与えないような表現が望ましい。

2-2) 公共事業等における合意形成事例調査・整理について

① 講演「道路政策のPI」

石田東生専門委員（筑波大学 システム情報系 社会工学域 教授）より、道路政策のパブリックインボルブメント（PI）について、資料WG6-3-1の内容に基づいて話題提供がなされた。道路計画決定プロセスの欧州との比較、PIの目的、PIの実践として東京外環道でのPIとして実践されたオープンハウスの例が紹介された。オープンハウスでは、不安を感じる人には、なぜ不安を感じるのかなどの思いをポスターにして他の人にも分かるように発表してもらいなど、一緒に考えて行くというスタイルの参加・対話型の大小集会在何回にも分けて継続的に行われた（50～500人規模で3年間500回くらい、5年間ほど継続）結果、40年近くの凍結状態から、いろいろな立場の住民等が参画するようになり、理解増進につながった。

② 公共事業等における合意形成事例調査・整理について（案）

幹事団よりWG6-3-2ならびにWG6-3-3を用いて公共事業等における合意形成事例の事例調査結果の経過報告があり、以下の通り意見交換がなされた。

- C: 公共事業では、様々の立場の関係機関が関わるが、それぞれの立場で行えることには限界があるため、それを認識した役割分担と協働が必要である。その中でも国の役割は重要であり、それを明確にして前に出て責任を果たしていくような仕組みが必要である。
- C: PIでは、事業を進める国や事業者が前面に立って合意形成のための、例えばオープンハウスのような仕組みを整えることが大事になる。
- C: PIとは、“住民参加”と単純に受け取られがちであるが、従来のような住民参加型にとどまらず、様々な住民の意見や視点をできるだけ生かした政策を行うための計画・政策決定の段階から、国や事業推進者が連携して前に出て、住民との対話集会等の場への参加を積極的に呼びかけて意見等十分に踏まえた合意形成を図っていくことであり、そのための仕組みを整えることが大事となる。
- C: PIのために重要な視点は、①結果に対する満足感、②手続きにおける満足感、③心理的な満足感である。③については、意見を出した人がきちんと聞いてもらえたというように感じられること等である。以上のような視点での取組になるための企画者側の対応や活動が大事である。

(3) 平成28年度再生利用WGの検討成果とりまとめについて

現地発生土等の活用事例調査と公共事業等における合意形成事例調査の経過報告を踏まえ、今後の、成果とりまとめに関する以下の意見が出された。

- C: 一般的な事例から抽出された事項を参考として、福島県における除去土壌の再生利用や中間貯蔵事業などに有効に適用しようとするときに、地域の方々の思いや福島の復旧・復興につなげて行くという前向きな目標のもとに、土木工学的観点からどのような工夫や提言があるか、成果の一つとして検討してみてもどうか。

(4) その他

今後の取りまとめ報告するこれまでの検討結果の内容については、メールベースで委員の間で審議・確認していただく方式で対応していくこととする。

配布資料

WG6-1 前回議事録（案）（第5回）

WG6-2 建設工事等に伴う現地発生土等の活用事例調査・整理について ー調査事例と考慮事項ー

WG6-3-1 講演資料「道路政策のPI」（話題提供：石田東生 専門委員）

WG6-3-2 公共事業等における合意形成事例調査・整理について（I） ー調査事例と考慮事項

WG6-3-3 公共事業等における合意形成事例調査・整理について（II） ー調査事例を踏まえた要点整理

以上